

農工商經濟論

農業篇下卷
永田健助譯

二

福岡第一師範學校
(學校圖書)

登錄號	第	號
產業		門部
總記		部
講演集	款	項
目		次
全	1	冊 / 內第 1 冊
分類號	第	號
604.0		

校學範

書門

部

番

2

號

2

5

冊 / 內

T1A1

67

N 23

圖書 和圖書 遡



a 1 3 8 0 3 2 7 4 5 6 a

福岡教育大学蔵書

0.54336

禮部學堂 農學論卷之二

農學

農業篇下卷

東京

永田健助

譯述

第二回

耕作

○農業開進ノ四期限 凡ソ耕作ハ地主自ラ之
 ヲ為スト小作人ニ之ヲ委スルトヲ問ハス自然
 ノ形勢ト社會ノ情態トニ從フモノナリ且人ノ
 勉業ハ其形體ノ何タルヲ問ハス自ラ此二者ニ
 由テ制セラルモノナリ

農學上ノ經濟學論

卷一 農業篇

思成館蔵反

自然ノ形勢ハ氣候ハ寒暖ト土地ハ肥瘠トニ由テ定ルモノナリ

夫レ人類ハ寒暖ノ別ナク何地ニモ居住スルヲ得ヘキ動物ノ一ナリ試ニ看ヨグリイニランドノ週年氷凍凝結クル極寒ノ地ヨリシテ赤道直下ノ亞非利加ノ如キ炎々燒クカ如キ極熱ノ地ニ至ルマテ凡ソ地球上到ル處ニ人類ノ棲居ヲ見サルヲナキヲ植物ハ然ラス季候ニ隨テ自ラ其萌芽スル所ノ區域アリ耕作物中最モ有用ニシテ且廣ク四方ニ布及シタル小麥ノ如キモ遙

ニ北極地方ニ到ラサルニ既ニ其萌芽ヲ絶テリ總テ耕作物ニハ各其生育ノ區域アリ僅ニ温帶ニ跨カレル佛蘭西國ノ中ニ於テスラ葡萄、玉蜀黍及ヒ橄欖ノ各生育スル區域アリテ各自其天然ノ區域外ニ到リテハ之ヲ作ルモ唯珍物ト為シ青房ノ中ニ於テ生育セシムルニ過キサルナリ加フルニ各地方固有ノ季節アリ而シテ各種ノ植物ヲ交播種シテ交之ヲ收穫スルノ時節ヲ定ムルモノナリ

此形勢ハ固ヨリ人類ハ左右シ得ヘキモハニ非

不凡ハ農夫ハ目的トスル所ハ此等ハ形勢ヲ能ク
ハ究明シ能ク之ヲ理解シテ能ク其勤勞ハ方法
ヲ之ニ合ナハシムルニ在リ

論理家ノ説ハ尚コレニ一步ヲ進メリ曰ク季候
ハ全ク變更スルヲ得ベカラサル者ニ非ラス田
野漸ク拓ケ戸口頻ニ繁殖スル所ハ多少其溫度
ニ感觸ヲ及ボスモノナリト此理固ヨリナキニ
モ非サレ氏數百年ノ歲月ヲ累ネサレハ其効
驗果シテ現ハレザルモノナリ實地家ノ此理ニ
基キテ農事ヲ經營スルハ全ク迂遠ノコナルベ

シ

某識者ノ言アリ曰ク人ハ土地ヲ創造スト良イ
カナ此言ヤ蓋シ農家ハ常ニ此金言ヲ心得テ其
土地ヲ耕ヤセハ自ラ利益アルヘシ即チ之ヲ開
墾シテ惡草ヲ絶チ乾燥ノ地ニハ之ニ灌溉ヲ布
キ濕地ニハ放水ノ便ヲ通シ以テ新田ヲ作りテ
太陽ノ光線空氣及ヒ雨露ノ恩ニ浴セシメ且其
地質若シ石灰粘土等ノ物料ヲ欠ク所ハ之ヲ混
化シ尚之ニ肥料ヲ施シテ地味ヲ肥沃ナラシム
可シ畢竟農家ハ年々ノ收穫ヲ以テ土地ノ膏血

ヲ絞リ取リタル丈ケ肥料其他ノ手當ヲ為シテ
 地カヲ回復セシムルノミナラス其自然ニ含有
 セサル土質ハ之ヲ與ヘサル可カラス然ラハ人
 ハ半バ耕地ヲ造リ且其勤勞ニ由リ之ヲ改良ス
 ルヲ得ル者ト云フモ可ナリ

然レハ農夫ハ其勤勞ヲ以テ最多ノ潤益ヲ收メ
 ント欲セハ植物生育ノ大法ニ從ヒ最モ能ク其
 地味ニ適スル者ヲ擇テ之ヲ耕種セサルベカラ
 ス例ヘハ山岳ノ峻嶮ナル斜面ニハ草或ハ樹木
 ヲ繁殖セシメ礮确ナル瘠土ハ森林ト為シ濕地

ハ之ヲ天然ノ牧草地ト為シ又寒風颯々タル沙
 礫ノ高原ハ小麥ヨリハ裸麥ニ宜シク粘土質ニ
 シテ石灰分ヲ含メル郊原ハ最モ小麥ニ適スル
 カ如キ是レナリ

却テ又社會ノ情態ハ種々無量ニシテ是レ人類
 ハ因テ造成スル者ナレハ敢テ一世一代ノ土地
 所有主ノ成ス所ニ非ラス人間社會ヲ組織スル
 萬代ノ子孫世々相繼キ其文明ヲ補益シテ而シ
 テ成ルモノナリ經濟上ノ沿革ニ於テハ此關係
 ニ基ツキ之ヲ區分シテ四期限ト為ス即チ左ノ

如シ

一 山林ハ期 是レ人類野蕃ノ域ニ居ル時代ニシテ土地ハ滿面ニ原野、森林、池沼、川澤ヲ以テ蔽ヒ人類ハ專ラ漁獵ヲ生産トスルノ時代ナリ

二 牧畜ハ期 是レ人類牛羊ヲ收シ半ハ水草ヲ追テ生活スルノ時代ニシテ當時人民ハ富ハ主トシテ家畜ナリ即チ韃靼人或ハアルゼリ、南部ノ亞喇比亞人ノ現状ニシテ其社會ノ經濟ハ全ク家畜ノ保養ヲ主トシ居ニ常處ナク天然牧草ノ生長セル野ニ天幕ヲ張リテ之ヲ住居ト爲

シ牧草ノ凋枯スル季節ニ會スルカ若クハ牛羊之ヲ食ヒ竭セハ相率キテ他方ニ移轉スルヲ常トスルモノナリ

此ノ如キ人民ノ部落ニテハ穀物ヲ耕作スルヲ甚タ稀ナリ然レモ當期ハ人口甚タ疎薄ナルニ沃野千里茫々トシテ盡キサレハ二年ト累ネテ同地ニ播種スルヲナク其耕作ノ法初メ野草ヲ燒キテ地味ヲ肥シ之ヲ簡易ノ鋤鋤ニテ搔キ起シ漫リニ播種シテ一回其收穫ヲ得レハ地味未タ瘦セサルニ之ヲ棄テ、他ノ田野ニ移リテ之

ヲ耕ヤスニヨリ自然ニ最モ善ク繁茂ス時トシ
 テハシベリヤニ於テ蕎麥ヲ播種スルカ如ク田
 圃ニテ之ヲ收納スルノ際其邊ニ散失シタル者
 明年自然ニ種殖シ毫モ人カヲ勞セスシテ五六
 年間ノ收穫ヲ得ルコアリ之ヲ名ケテ遊牧耕作
 ト云フ

三 農耕ハ期 是レ即チ禾穀ヲ種殖シ居コ一處
 ニ定メタル人類社會ノ生活ヲ營ムノ時代ニシ
 テ當時專ラ小麥ヲ耕作シテ已ニ繁殖シタル人
 民ニ給與セリ吾人カ歐洲ノ中央部及ヒ東部ノ

近世農事沿革ニ就テ知ルカ如ク當期ノ間ハ開
 墾日ニ月ニ四方ニ布及シテ森林及ヒ牧野ハ山
 岳及ヒ水邊ノミト為リ毎年其鋤鋏ニテ開墾シ
 タル畦ニハ小麥裸麥及ヒ烏麥ノ類ヲ播種ス其
 耕作ハ毎年引續イテ同種ノ物品ヲ收穫スルキ
 ハ土地疲倦スルガユヘニ二年乃至三年目ニハ
 全ク播種ヲ止メテ土地ヲ休憩セシムルヲ法ト
 ス之ヲ曠野ハ耕作ト云フ當期ハ農耕上尚學術
 ト財本ノカヲ借ルコ少ク多クハ人カハ致ス所
 ニシテ而シテ其產出シタル貨物ハ幾ント皆其

消費スル所ナリ

四商賣ノ期 是レ農業進歩ノ點ヨリ見ルルハ百工製造發育ノ期ニ符合スル時代ニシテ當時ハ諸方ニ都邑村落頗ニ勃興シ人民之ニ輻集シテ海陸共ニ各地交通ノ便ヲ開キ甲地ノ産物ハ乙地住民ノ衣食ニ充ツルノミナラス都會ノ住民ニモ之ヲ給與スヘシ前期ニ於テハ人民皆特未製物ヲ増加スルノ業ニノミ就シカ當期ニ至リテハ農民ハ自己ノ需用ニ充ツルモノ、外ニ百工製造ヲ業トスル人民ニ鬻クベキモノヲ産

出セサルベカラズ斯ク此人民等ノ農作物ヲ購求スルニ由リテ農家ハ愈財本ヲ得ルニヨリ益有餘ノ物品ノ産出ヲ容易ナラシムルニ至ルハシ即チ家畜ハ日ニ益増殖シ器械ハ月ニ益完全ヲ致シテ遂ニ耕作ハ最モ多岐ナル術ト為ル可シ蓋シ此時ニ至レハ各地方交通ノ便開ケタルニヨリ各州共ニ最モ善ク其地味ニ適スル物品ヲ作りテ互ニ交換スルヲ得ベケレバナリ當期ニ至ハモ人民尚曠野ノ耕作ヲ行フトイヘ氏漸々多効耕作(即チ某面積ノ土地ニ前ヨリ多

量ノ財本ヲ加ヘテ是ヨリ饒多ノ物産ヲ收穫スルノ方法ニ赴クヘシ此耕作方ヲ行フニ至リテハ數多ノ家畜ヲ保養スルカユヘニ前期ノ如ク唯天然ノ牧野ヨリ收穫セル者ノミヲ以テハ之ニ給スルニ足ラス土地休耕方ヲ廢シテ人爲ノ牧場ヲ造ラサルヲ得ス秣料耕作ノ名ハ之ニ由ルナリ此時ニハ家畜ヲ飼フカ爲ニ各種ノ根物及ヒ野菜ノ類ヲ耕作セリ之ヨリ尚一層進歩スルハ多効耕作法ヲ以テ人類ノ滋養ニ供フルカ為葡萄及ヒ禾穀ヲ作ルノミナラス甜紅蘿蔔

菜種亞麻罌粟煙草等ノ未製品ヲ耕作シテ製造家ノ材料ニ給ス既ニ此期ニ至レハ吾人之ヲ區別シテ百工製造ハ耕作ト云フ之レヨリ尚一層多効ノ耕作ヲ菜園耕作ト云フ是レ其地面ニ數倍ハ財本ト數倍ハ勤勞ヲ加フル者ニシテ即チ肥料灌溉及ヒ人力ノ功用ヲ以テ年々相續イテ饒多ノ野菜及ヒ菓物ヲ産出スルモノナリ勿論此耕作ハ多分ニ此等ノ物品ヲ消費スル大都會ノ近地カ若クハ大都會ニ之ヲ輸出スルニ便利ナル地方ニ非レハ為スヲ能ハ

サルナリ

○耕作ノ種々ノ方法。前ニ陳ル所ノ四期ハ年月ヲ逐テ自然漸次ニ農耕ノ發育進歩スル順序ヲ示スモノナリ凡ソ萬國ノ人民必ズシモ此順序ヲ逐テ進ムニ非ス今日尚此最終ノ期ニ進マサルモノ最モ多シ是レ全ク其國自然ノ形勢ト社會ノ情形ノ然ラシムルモノナリ例ヘハ亞喇比亞ノ如キハ太古ヨリ人民之ニ居住シタル地ナレバ其大半ハ尚依然トシテ牧畜ノ期ニ停止セリ將來モ亦然ラン又一方ニ向テ亞米利加合衆

國ノ如キハ歐人之ニ移植セシ以來森林ノ期ヨリ直ニ進テ耕作ノ期ニ達セリ且又既ニ商賣ノ期ニ進ミタル國ニ於テスラ地方ニ隨ヒテ大ニ耕作ノ方法ヲ異ニセリ即チ都會附近ノ地ハ菜園耕作ニ宜シク財本ニ富メル地方ハ盛大ナル器械ヲ用キ且肥料ヲ施シテ多効耕作ヲ為スヨ得ヘシ特ニ貨物運輸ノ便開ケタル地方ニハ賣買品ノ耕作アリ又貧困ニシテ且遠ク中央都會ト懸隔シタル地方ニテハ其區域内ニテ自ラ耕作シテ自ラ消費スルニ過キス其他甚シキ瘠地

澤地及ヒ山地ニ在テハ半遊牧ヲ事トス佛蘭西ニ於テ其例ノ見ルヘキモノアリ讀者須ラク巴里ノ近傍トフランドル、フリ、ガスコギ、ソロ、ギ及ヒアーベルギノ各地ヲ比較セバ自ラ之ヲ理解スルヲ得ヘシ

農學家ハ農業開進ノ一般ノ情態ノミナラス又土地生産力ノ法ヲ觀察シ而シテ一部分ハ全ク前陳ノ四期ノ區別ヲ反覆シテ農事沿革ノ事蹟ト尚同一國ニ於テ各様ナル耕作ノ現狀トニ照合シテ之カ區別ヲ立タリ即チ左ノ如シ

一 森林ハ耕作

シヤンパーギノ鄙地ランドノ

野地ノ如キ禾穀ヨリハ專ラ有用ノ樹木ヲ耕種スルヲ利トスルノ地ニ在テハ森林耕作ヲ事トセリ而シテ其中ニハ小區畫ヲ為シテ二十五年乃至三十五年間毎ニ伐木シテ再ヒ之ニ栽植スルモノアリ之ヲ半森林耕作ト云フ

二 牧草耕作

是レ牧草ノ豊多ナル土地ニシテ

其内ニハ半森林耕作ニ於ルカ如ク又小區畫ヲ為シ牧草ヲ耕作シテ家畜ヲ養フナリ之ヲ半牧畜耕作ト云フ

三 秣料耕作 最モ豊饒ナル土地ニ播種シテ牧草ヲ耕ヤスヲ云フ 此時ニハ牛羊ハ冬季ノ間モ充分ノ食料ヲ有スルニヨリ最モ好ク生長スルヲ得ベシ

四 禾穀耕作 是レ專ラ穀物耕作ヲ主ト為シ他地方ヨリ肥料ヲ購求シテ耕ヤスモノヲ云フ

五 製造耕作 既ニ述フルカ如ク此耕作ハ地味肥沃ニシテ財本豊備スル處ニ非レバ行フヲ能ハサルナリ

此五ヶ條中森林耕作及ヒ牧草耕作ハ曠野ノ耕

作ナリ其每反歩ノ面積ニ費ヤス所ノ財本ハ些少ニシテ家畜ヲ保養スルニハ原野ニ於テセリ之ニ及シ他ノ三ヶ條ハ有効耕作ニシテ每反歩ニ最モ多量ノ財本ヲ要シ而シテ家畜ヲ保養スルニ半若クハ全ク秣飼ヲ以テ生育スルナリ
○農耕財本 凡ソ農耕ノ初期ニ於テハ農民ノ富ハ幾ント全ク土地一個ニ在リトイヘ氏有効耕作ノ世ニ至テハ土地ハ第二ノ要用物ト為リテ第一專緊ナル者ハ耕作ノ財本ナリ此財本ヲ分ツテ二種トス

一 不可動財本ハ土地ニ附着シテ賣買價ノ性質ヲ表スルモノヲ云フ即チ開墾シテ之ニ肥料ヲ施シ凸凹起伏ヲ平坦ニシ灌溉ヲ布及シ放水ノ便ヲ疏通スル等ハ凡テ土地ト相混シテ大ニ地味ヲ肥沃ナラシメテ其價格ヲ増加スルモノナリ但收納屋舎モ亦此中ニ屬セリ

二 耕作財本即チ可動財本ハ諸種ノ農具家畜肥料種物類其他農人ノ衣食給料等ノ如キ一切ノ諸用度ヲ云フナリ或農學者ハ可動財本ヲ小分シテ左ノ四種トス曰ク元入財本即チ家畜資料

修繕費等曰ク循環財本即チ雇人ノ給料種物等ノ如キ一般ニ來秋收穫ノ中ニテ回復スヘキ費用曰ク貯蓄財本即チ凶年飢歲其他不時ノ災禍ニ供フルモノ曰ク製造財本即チ油ヲ絞リ或ハ蒸餾物ヲ製スル等ノ如キ製造ノ農業ヲシテ全ク農作ニ屬スル事業ト別ニセンカ為ニ供フルモノ又此小部分中ニ修繕財本ヲ附加スルアリ即チ灌溉開拓放水等ニ供スルモノニシテ其消費セル丈ケハ不可動財本ノ中ニ加ハルモノナリ

凡ソ農作ニハ唯多量ノ財本ヲ有スルノミニシテ足ラス又之ヲ使用スル方法ヲ知得セサル可カラス第一ニ百工製造ヲ興スト一般ニ其不可動財本ニ能ク可動財本ヲ比例シテ過不及ナカラシムルヲ要ス而シテ其可動財本ヲ種々ニ小分スルニモ凡テ起業ノ各科自ラ害ナフコトナク互ニ相助ケテ其逐次ノ須要ニ隨ヒ差支ナク財本ヲ入ル、ノ方法ニ據ラサル可カラス例ヘハ其新田ノ開墾ニ殆ト全ク其所有資金ヲ費シ次テ此ニ備フヘキ家畜ヲ購フノ資本ヲ用意セザ

ル農夫或ハ某牧場ヨリ産出スヘキ秣草及ヒ其他野菜ノ多寡ヲ計ラスシテ數多家畜ヲ購ヒ入ル、カ如キ農夫ハ恰モ彼ノ家屋ヲ造リ其全ク落成ヲ告ゲサルニ先ツツテ之ニ器具ヲ裝飾シ次ニ屋背ヲ葺クヘキ資金ヲ欠キタル痴人ト一般ナリ此法ヲ遵守スルコトハ農耕ノ術ニ於テ最モ欠ク可カラサルノ要務ナリウーゼイ氏云フ循環財本ハ概シテ元入財本ヨリモ更ニ多量ニ供ヘザル可ラス且耕作ノ方法ニ從ヒ可動財本ノ不可動財本ニ對スル割合ハ全ク左ノ比例ニ

由ルモノトセリ

牧草耕作 不可動財本二百ニ 可動財本 一百八十三

秣料耕作 同 同 四百

禾穀耕作 同 同 五百

製造耕作 同 同 五百十二

之ヲ要スルニ可動財本ハ曠野耕作ニ於テハ不可動財本ニ倍蓰セガハ製造耕作ニ於テハ之ヨリ五倍有餘多カラザル可カラス

之ヲ畢フルニ農業經濟ノ各科ハ其何タルヲ問ハス常ニ左ノ主義ヲ適用スルヲ得ベキモノト

ス曰ク農耕ノ路ヲ進歩セシムルハ本源ハ主トシテ財本ハ饒多ナルニ由ルト看ヨ肥料ヲ施ス
ト多カラザレバ收穫豊カナラス肥料ハ即チ財本ヨリ生スルニアラズヤ又數多ノ家畜ヲ養ハザレバ耕作完全ナラズ然スルニハ許多ノ財本ヲ要スルニ非ズヤ製造耕作ハ潤益最モ多シトイヘ凡是レ又豫備スル所ノ財本最モ多カラザル可カラス凡ソ何人トイヘ凡之ヲ振起セント欲セハ豫テ數多ノ可動財本ヲ備ヘザルヘカラス
スグリギンノ農學校ヨリ一千八百六十二年ノ

博覽會ニ報告シタル意見中ニ左ノ格言アリ曰
 ク耕地ノ深カラ倍蓰セヨ然ラハ其地ノ産力ヲ
 倍蓰スベシ曰ク勉メテ地産ヲ多加ラシメヨ是
 レ最モ急速ニ其地味ヲ改良スルノ便法ナリト
 是レ多効耕作ニ必用ナル原則ニシテ即チ財本
 ノ土地價格ニ影響スル如何ヲ示スモノナリ
 ○種植交替法 此故ニ凡ソ農耕ノ術ハ千種萬
 狀ノ模様ニ從テ其方法ヲ異ニセザル可カラズ
 佛蘭西ノ如キ國ニ於テスラ一定不易ノ耕作法
 ヲ以テ農民ニ示明スルヲ能ハサルベシ

然レモ普子ク通スヘキ二規則アリ第一自然ノ
 理ニ從ヒ凡ソ土地ヨリ收穫シタルモノハ必
 ク其復タ土地ニ施サハル可カラズ然ラサ
 ハ地力速ニ疲倦スベシ第二經濟上ノ理ニ從
 ヒ其土地ヨリ勉メテ多量ハ物品ヲ産出セント
 スルニアリ蓋シ種植交替説ノ因ル所ハ此二規
 則ニ外ナラザルナリ
 第二則ナル經濟上ノ理ニ從ヘハ勉メテ土地ヲ
 休憩セシメス地力ヲ働カシムルヲ利トス土地
 休憩トハ一年若クハ二年間穀物ヲ收穫シタル

ノ後之ヲ休憩セシメテ地力ヲ恢復セシムルヲ云フ但シ其休憩ノ間トイヘル之ニ許多ノ勤勞ヲ與ヘテ其惡草ヲ耘キリ且肥料ヲ施シテ日光ニ曝露スルヲ要ス此方法ハ頗ル有益ニシテ田野未タ拓ケス地價未タ貴カラス資本未タ豊カナラサル地方ニ在テハ地力ヲ保存スルカ為ニハ最モ便益ナリ然レル土地已ニ逼迫シテ地價特ニ貴キ地方ニテハ斯、ル高價ノ具ヲシテ空シク一年間休憩セシムルハ是レ又為シ得ベカラザルモノナリ

種植交替トハ年々引續キ同一ハ地面ニ施シタル耕作ハ稱ニハテ宛モ農耕ノ一週期トモ云フベキモノナリ例ハ佛國ノソローギ地方ノ如ク一年休耕ノ次年ニハ穀物ヲ播種シ其次年復タ休耕シテ後禾穀ヲ耕作スルカ如キ或ハ佛國南部ノ良地ニ於ルカ如ク一年玉蜀黍ヲ播種シテ休耕ナク次年ニ小麥ヲ播種シ又其次年ニハ玉蜀黍其次年ニハ小麥ヲ播種スルカ如キヲ云フ即チ此ハ二年間ノ交替ニシテ中ニ就キ其最モ簡易ナル法ナリ豊饒ナル地方ノ交替耕作ハ

是ヨリ一層錯雜スルモノナリボウス及ヒピカ
 ルジノ石灰地ニ於ルカ如キ太古ヨリ尚今日
 ニ至ルマテ慣用スル所ノ方法ハ三年ノ交替法
 ナリ即チ一年ハ肥料ヲ施シテ休耕シ次年ニハ
 小麥ヲ作り三年目ニ烏麥ヲ種植セリ最モ周密
 ナル耕作法ニ於テ八年々作物交替ノ多キ四年
 ヨリ乃至十八年ノ期ニ及ボスアリ左ニ述ブル
 所ノ種植交替法ハ多分ノヨリ出タルモノナリ
 之ヲ每四年交替耕作又ハ一ホルクノ耕作法ト
 云フ

第一年目

根物(大根紅甜蘿蔔等)但シ前ニ多
 量ノ肥料ヲ施シ置クナリ

第二年目

春季ノ小麥

第三年目

苜蓿

第四年目

冬季ノ小麥

又之ヲ順番耕作ト云フ何トナレハ惡草ヲ絶ヤ
 ス植物及ヒ穀物ノ如キ種々ノ性質ナル植物ヲ
 年々順番ニ耕作スルニ注意スレハナリ斯ク順
 次交替スル所以ハ殊ニ第一則ナル土地ヨリ收
 穫シタルモノ丈ハ復タ土地ニ施スノ理ニ基ツ

クナリ

抑種植交替法ハ各種ノ植物ヲ耕種スルノ主義ナルガユヘニ人民能ク農耕ノ理ニ通曉スル處ニ非サレバ行ハレザルモノナリ

一 凡ソ植物生育ノ方法ニハ數種アリ特ニ葉ヨリ空中ニ包含セル物質ヲ吸收シテ生育スルモノアリ又特ニ地中ニ包含スル物質ヲ根ヨリ吸收シテ生育スルモノアリ然ラハ之ヲ耕作スルノ方法モ亦自^オラ異ニセザル可カラス故ニ特ニ空氣ニ由テ養ハル、植物ヲ種植シテ其儘地

中ニ埋メルカ若クハ一旦之ヲ家畜ノ飼料ニ充テ、其糞料ヲ施ス時ハ己ニ引去リタル地中ノ精分ヨリハ更ニ多量ニ地カヲ回復セシメ而シテ根ヨリ養分ヲ受テ生活スル植物ノ土中ヨリ引去リタル精分ヲシテ復タ地ニ戻スベシ即チ^{カマゴヤシ}苜蓿及ヒルゼル^{佛國}等ニテ專ラ^料用フル草ノ名ノ如キハ地カヲ養フ植物中ニ属スルモノナリ何トナレハ第一ハ家畜ノ飼料ト為スノ後肥料ト為シテ之ヲ地ニ施シ第二ハ良田ニ在テハ又其長キ根ヲ留メテ其レカ地中ヨリ吸取シタル物料ヨリ

ハ更ニ多量ノ膏血ヲ遺存スレハナリ蕪ハ一個ニ論スレハ首蓄ト一般ニ甚シク地力ヲ疲耗スレ氏糞料ト為リテ多分ニ地味ヲ肥ヤスノ資ト為ルニヨリ又此部ノ植物中ニ算入スルヲ得可シ之ニ反シ穀物ハ市場ニ之ヲ鬻キ其土地ニ戻スモノハ唯牛馬ノ寢床ニ入タル藁ノミナルカユヘニ地力ヲ疲耗スル植物中ニ算入スルモノトス

二

又禾穀ハ土地ヲ汚染スル植物ナリ何トナレハ此耕作地ニハ容易ニ删除シ難キ惡草ヲ發

生シテ之ヲ布蔓セシノ收穫ニ先ダチ其種ヲ散布シテ而シテ翼年ニ至リ滿地ニ發生セシムレハナリ故ニ穀ハ雜草ヲ絶ヤス植物ト交相更ヘテ耕作スルヲ利トス此植物ニハ數種アリ蓋シ斯ク之ヲ名クル所以ハ蕎麥及ヒ大麻ノ如キハ自然惡草ノ萌芽ヲ遏止スル勢カアルカユヘナルミシ又甜紅蘿蔔及ヒ馬鈴薯ノ如キハ其耕作タル惡草ヲ生長セシメスカメテ之ヲ除カザルヲ得サルニヨリ其繁茂シテ種下スルニ先ダチ除草器ニテ之ヲ除去レハナリ

三 第二則ナル經濟上ノ理ニ從ヘハ種植交替耕作ニ於テハ成丈ケ地面ヲ明ケ置カズ勉メテ多量ノ收穫ヲ為スヲ主トス此故ニ各作物ノ收納節ヲシテ次作ノ播種ノ季節ト附合セシムルヲ要ス但播種スルニハ第一地ヲ搔キ起シテ之ヲ整頓スルヲ要スルニヨリ收納ヲ了ルヤ否ヤ直ニ播種ノ期ニ到ラザルヤウ耕作ノ順序ヲ立ザルベカラス尚又其間ノ餘リ長カラザルヲ要ス蓋シ休耕ノ間ハ其土地ヨリ收穫スルヲ得ヘキ潤益ハ全ク損失ト為レバナリ

四 概シテ種植交替耕作ノ初年ニ於テハ地ハ甚タ多量ノ肥料ヲ含有スルニヨリ人若シ此肥料ヲ施ス後直ニ穀ヲ播種セハ滋養料過分ニシテ藁非常ニ繁茂シ其成熟ニ先ダテ覆ヘルノ憂アリ故ニ肥料ハ交替年限ノ間少許ツ、度々ニ施與スベシ蓋シ肥料ト修繕トハ主トシテ作物ノ地ヨリ吸取シタル養分ヲシテ又地ニ復サシムルカ為ニスルノミナラス尚自然ニ土地ハ有セサル養分ヲ之ニ付與スルモノナレハ耕作ニハ最モ緊要ナル財本ナリマツチドデドニバル有

農學家曰ク最モ能ク肥料ヲ施シタル一坪ノ地面ハ能ク二坪ノ價アリト

凡テ耕作ニ適スル土地ハ砂、粘土、石灰質及ヒ糞土等ヲ種々ノ割合ニ抱合スルモノナリ故ニ耕地ヲ改良セント欲セハ其地質中ニ欠乏セル原素ヲ入レ又ハ之ヲ抱合スルモ其分量不充分ナレハ之ヲ補ハザルベカラス之ガ為ニ世人ノ最モ多ク使用スル所ノ者ハ石灰、粘土及ヒ壁土ナリ
蓋シ植物ヲ發生セシムルニハ須ラク尚他ノ原

素ヲ要スベシ凡ソ植物ハ主トシテ炭素、酸素、水素又時アリ窒素ヲ以テ成レバナリ故ニ空氣日光及ヒ雨露ニ由リテ地ニ供備セサル者ハ肥料ヲ以テ之ヲ補ハサル可カラス肥料ニハ田圃肥料ト賣買上ノ肥料トノ二種アリ

田圃肥料トハ綠色肥料ト糞料トノ稱ニシテ綠色肥料トハ初メ之ヲ播種シ已ニ生長シテ花ヲ開キタル頃ニ其儘鋤ニテ地中ニ埋伏スルモノヲ云フ糞料トハ初メ植物ヲ土地ニ生長セシメ之ヲ刈取リテ乾草ト為シ而シテ家畜ノ食ニ充

ルカ又ハ寢藁ト為シテ後土地ニ施用スルモノ
ヲ云フ

賣買上ハ肥料トハ農家が製造家若クハ商賈ニ
就キ購求スル所ノ肥料ニシテ即チ動物骨粉鳥
糞粉及ヒ人造肥料等種々アリ凡テ此等ハ最モ
手數ヲ要スルモノナレバ多分ニ施與スルイ能
ハス其收穫シタル物料ノ一部分ヲ僅ニ土中ニ
復スルニ過キズ

然レモ此二種ノ肥料ニハ左ノ異ナルアリ一ハ
直ニ其生長シタル田圃ニ入レテ地力ノ疲耗ヲ

過止スルニ過ギス一ハ遠方ヨリ購求スルヲ以
テ持リ富農ノミ用キテ其土地ヲ豊カナラシム
ルモノナリ是レ即チ余カ既ニ説示シタル彼ノ
農作進歩ハ貴重ナル原因ハ財本ニ富ムルニ在
リトノ經濟法ヲ想起スルニ足ルモノナリ

五

讀者須ラク記憶スヘシ凡ソ種植交替耕作

ニハ確然タル一定不易ノ規則ナキヲ何トナレ
ハ南部地方ニ適スル作物ハ北部地方ニ適セズ
又石灰質若クハ乾燥地若クハ熱地ニ適スルモ
ノハ砂土若クハ糞土又ハ北地ノ寒ニ堪ヘス又

有財農家若クハ都會近傍ノ土地ニ適セル作物
ハ微カノ小作人若クハ運輸ノ便ヲ欠ク所ノ僻
邑ニ適セサレバナリ凡ソ農夫ハ一己ノ偏見ニ
迷ハス且輕卒ニ走ラス自ラ經驗ヲ累子テ農事
ヲ經營セサル可カラス農家ハ宜シク常ニユ
ズ氏ノ格言ヲ心得置ク可シ曰ク良農ハ果シテ
交替耕作ハ方法ヲ善クス其方法宜シキヲ得ル
所ハ地中ヨリ産出スル所ハ富ハ測リ知ルベカ
ラスト

○佛國ハ草質物耕作 凡ソ農家ハ自己ノ需用

ト自己ノ資カトニ應シテ交替耕作法ヲ立テ且
毎年我需要ニ供スル物品ヲ收穫スルヲ得ルノ
方法ニ種植ノ分科ヲ為サ、ル可カラス例ヘハ
二十町歩ノ田野ニ夫ノハ一ホルク即チ每四年
間ノ交替方ヲ施サント欲セハ各個五町ツ、四
區ノ土地ヲ有シテ之ニ同年作ルヘキ者ハ第一
區ニハ大根第二區ニハ大麥及ヒ烏麥等ノ如キ
春季ノ穀草第三區ニハ苜蓿第四區ニハ小麥及
ヒ裸麥ノ如キ冬季ノ穀草ヲ種植スルヲ要スル
カ如キ是ナリ

之ニ由テ吾人ハ佛蘭西ハ各田圃共ニ多少精細ニ順序ヲ立テ、物品ヲ産出スル一大耕作場タリト思惟スルヲ得ベシ
佛國ハ穀物ハ産出ニハ最モ善ク適セル國ナリ特ニ穀物中ノ魁タル小麥ヲ好トス佛國ノ面積五千四百萬エクタールノ中幾ント其半ハナルニ千七百萬エクタールハ耕地ニシテ其内五分ノ三即チ一千六百萬乃至一千七百萬エクタールハ穀物ヲ生シ五分ノ一即チ五百萬エクタールハ年々休耕地又五分ノ一即五百萬乃至六百萬エクタ

ルハ人造ノ收草地又ハ製造ニ用ユヘキ植物或ハ秣料ヲ耕ヤセリ
今日小麥ノ耕作ニ充ツル田圃ノエクタールノ數ハ昔時ヨリ甚タ多ク而シテ毎エクタールヨリ收獲セル高モ亦平均太々多シトス看ヨ一千八百十五年ニハ四百五十萬エクタールニ小麥ヲ播種シテ之ヨリ收獲セル穀量ハ四千萬エクタトリトルエクタトリトハ即チ毎エクタールニ九エクタトリトノ割合ナリシカ今日ニ至リテハ七百五十萬エクタトリニ播種シテ平年一億萬エクタトリ

トルノ收穫ス即チ毎エクタールニ十四エクトリ
 トルノ割合ナリ小麥ハ春秋二季ニ播種セル植
 物ニシテ善ク肥料ヲ施シタル膏腴地ニ於テハ
 最モ善ク繁茂セリ概シテ他ノ穀草ト一般ニ氣
 候地味共ニ之ニ相合ナフ時ハ秋月播種ハ春月
 ノ播種ヨリモ收穫最モ豊多ナリ

佛國ニ於テ小麥ニ次キ要用ナル穀物ハ烏麥ナ
 リ其收穫高ハ六千八百萬エクトリトルニシテ
 年々其増加スルノ割合ハ馬匹ノ數ノ増加ニ比
 例セリ而シテ其産出スル地方ハ殊ニ北部地方

ニシテ粘土ニ多シトス而シテ中央地方ニ於テ
 モ時アリ秋月播種スルヲアレハ北部地方ニ於
 テハ春月ヲ以テ常例トスルモノ、如シ

之ニ反シ當時裸麥ノ收穫高ハ二千五百萬エク
 トリトルニシテ此耕作ハ小麥ノ耕作盛大ヲ致
 スニ隨ヒ年々衰頽ニ赴ケリ此作物ハ砂質カ又
 ハ石灰質ノ寒地ニ繁茂セリ

大麥ノ收穫高ハ幾ント二千萬エクトリトルナ
 リ此作物ハ粘土質ノ地ヨリハ寧ロ砂質カ若ク
 ハ石灰質ノ地ニ適シ通常春月ニ播種スルモノ

トス

玉蜀黍ハ豊饒ナル地ニ善ク肥料ヲ入レタルモ
ノヲ好ミ其耕作ハ特ニ西南地方ニ盛ナリ此作
物ハ蕎麥ト等シク多分ニ種植セサルナリ其收
獲高ハ當時一千萬^エクトリトルヨリ多カラス
又蕎麥ハ佛國ノ僻陬寒郷ニ至テハ今日尚人ノ
食料ニ充レ^ル豊饒ナル地方ニテ之ヲ耕作スル
ハ動物ノ食料ニ充ルカ若クハ土地ノ雜草ヲ絶
ナスガ為ナリ
百工製造及ヒ牧畜ニ用フル植物耕作ハ進歩ハ

小麥ハ耕作ヨリハ更ニ一層迅速ナリ是ヨリ先
キ一百年前マテハ此作物中農家ノ知ル所ノモ
ノハ獨リ大麻及ヒ亞麻ノミナリシカ今日ニ於
テハ他ニ數種アリ即チ苜蓿^{クローバー}ハ北地及ヒ南部ノ
最モ清涼ナル地方ニ於テ大ニ耕作スル所ナリ
ルゼルン^ルハ豊壤ニシテ且作土深カラザレバ繁
茂セサル牧草ナリ又センホア^ンハ乾燥地ヲ厭
ハサル牧草ナリ此二種ノ牧草ハ人爲ノ牧場ヲ
成スモノニシテ佛國耕作上ニ一大改革ヲ為サ
シノ而シテ我一方ノ地方ヲシテ耕作ノ期ヨリ

直ニ進テ商賣ノ期ニ移ラシメタリ人為牧場ノ
 普通ニ存スル地方ニ在テハ小麥ハ一エクタ
 ニ就キ中算十九エクタトリトルヲ收穫セリ然ル
 ニ牧場少キ地方ニ到テハ其收穫ハ十エクタリ
 トルヨリ多カラスト云フ按スルニ牧場アレハ
 スカユヘニ自然其地方ノ土
 地ヲ肥沃ナラシムル者ナリ
 馬鈴薯ハ毎年食料トシテ一億五千萬エクタリ
 トルヲ供ス菜種^{カウ}ヱツト等ノ油質物煙草染料
 植物ノ收穫モ亦最モ利アリ青物野菜ノ類モ方
 今ハ饒多耕作ス甜紅蘿蔔
 砂糖製造ノ資ナリハ方今佛國

北部ノ諸州ニ於テ専ラ耕作スル所ニシテ此植
 物ハ一ハ家畜ノ食料ニ供シ一ハ砂糖ヲ出スカ
 ュヘニ人為牧場ト一般ニ大ニ農耕ノ方法ヲ改
 革セシメタルモノナリ甜紅蘿蔔ノ耕作ニ由リ
 農耕ヲ進歩セシメタル一例ヲ舉レハ彼ノウラ
 シン^シイン府地方ヲ看ヨ一千八百二十年ノ頃砂
 糖製造局ノ創立前ニ在テハ其保養スル所ノ牛
 七百頭小麥ノ收穫高三十五萬三千エクタリト
 シナリシカ一千八百五十三年ノ頃ナル砂糖ノ
 製造俄ニ盛大ヲ致シ大ニ甜紅蘿蔔ノ耕作盛ナ

ル期ニハ其同地方ニ有スル所ノ牛ハ一萬一千五百頭小麥ノ收穫高四十二萬一千^五トトリトルニ至レリ

人為ノ牧草地ヲ造リタルモ敢テ天然ノ牧野ヲ遺棄スルニ至ラス之カ為ニ却テ此ヲ盛大ト為スニ至ルナリ蓋シ富有ナル農家ハ自カラ多數ノ家畜ヲ用エヘシ而シテ人ノ勤勞ヲ要スル土地ニハ多分ニ之ヲ生育セサルナリ故ニ此等ノ需要ニ供フルニハ天然ノ牧野有ル地方ヨリスベシ

天然ノ牧野トハ牧草ヲ作りタル田野ニシテ牛羊馬等現ニ其場ニ在テ食ヒ又之ヲ刈取り乾艸ト為シテ之ニ食ハシムルモノヲ云フ是ハ大人ノ希望スル一種ノ産業ナリ何トナレハ産出スル所ノモノ甚タ多クシテ人ノ勤勞ヲ要スルト最モ少ナケレハナリ然レモ牧草地ニハ必ス多量ノ水ヲ要スルニヨリ如何ナル土地タリモ之ニ適用スルヲ得ス江河ノ邊カ若クハ山岳ノ斜面ニ於ル低地ニシテ容易ニ水ヲ供スルヲ得ヘキ野ニアラサレハ之ヲ經營スルヲ能ハサル

ナリ
 水ヲ引クヲ能ハサル山岳ノ斜面ニシテ樹木稀
 疎タル中ニ於テ牧草自然ニ繁生スル地ハ即チ
 牧畜場ヲ成セリ牧畜場トハ人其草ヲ刈取ラズ
 但其中ニテ家畜ヲ飼フ所ヲ云フ概シテ金雀艸
 アジコンク或ハ灌木林中處々ニ草ヲ生長スル部
 分ハ「パーチ」及「ロランド」ナリ 以上凡テ荒
 蕪地ヲ云フ
 凡ソ地方ノ表面ハ常ニ變換セサルナリ此故ニ
 禾穀ノ田野又ハ天然牧草地ノ面積廣大ニ至ル
 所以ハ皆農耕進歩ノ致ス所ニシテ國家一般富

有ノ進歩ト親シク相連累セリ即チ荒蕪地ヲ開
 墾シ或ハ下等地ヲ修繕シ且草蕪地及「パーチ」
 「」ヲ開墾シ又ハ之ニ樹木ヲ栽植シ或ハ之ヲ牧
 草耕地ニ變換シタルカユヘナリ此等ノ修繕ニ
 由テ植産ノ收納高ハ頗ル増加ヲ致スベシ或草
 蕪地ハ殆ト年々所得ナキモノ、如シ官報統計
 表ニ據レハ牧畜野一エクタールノ中算所得ハ六
 フランク五十「サンチム」ニ至リ天然牧草地ノ所
 得ハ一百二十一「フランク」ヲ極度トス通常ノ牧
 草地ヨリ收納セル乾艸ハ二千四百「キログラム」

我二百六十ナレ氏人工ヲ以テ灌溉ヲ及ホシタル
 十八畝余
 同積ノ地面ヨリスル收納高ハ八千キログラム
 ヨリ乃至一萬キログラムニ至ル斯ク差異ヨ生
 スルモノハ如何ナル原因ニ出ルヤ蓋シ財本ノ
 豊多ナルニ外ナラス總シテ土地ヲ開墾シ且之
 ヲ改良スルニハ豫テ許多ノ資本ヲ費サザルベ
 カラス然レモ之ニ由テ産出シタル物品ヲ購求
 スル者富有ニシテ其捌ケ口多キ場合ニ非レハ
 此費用ヲ供シ土地ヲ拓クモ損益却テ相償ハサ
 ル可シ

佛國ノ現状ヲ察スルニ土地改良ノ事ハ尚未タ
 充分セリト云フヲ得ズ當時天然或ハ人為ノ牧
 草地及ヒ其牧畜場ヨリ收穫セル年々ノ所得ハ
 一千億フランクナリトス尚此所得ヲ増加スル
 一能ハサルノ理アランヤ看ヨ天然牧草地ハ僅
 ニ五百萬エクタールニ過キスシテ牧畜場パーチ
 一草蕪地ハ六百五十萬エクタール餘有ルヲ
 ○佛國ノ家畜 蓋シ農耕ノ道ヲ進ムルノ精神
 ハ財本ニ在リトセハ凡ソ財本ヲ造出スルノ最
 多ナルモノハ家畜ニ如クモノナカラン農家ヨ

リ之ヲ見ルルハ家畜ノ利ハ三様ノ別アリ第一
 家畜ハ肥料ノ産出者ナリ即チ植物ヲ消費シテ
 之ヲ肥料ニ調製スル製造局ナリ第二牛馬ノ如
 キハ之ニ重荷ヲ駄シ且之ヲ牽カシムルノ具ト
 為ル可シ之ヲ駄牽獸ト云フ第三産物ト為スラ
 得ベシ即チ之ヲ土地收入ノ一部分トシテ市場
 ニ販賣スルカ若クハ牛乳羊毛等ノ如キ第二ノ
 産物ヲ收メテ之ヲ販賣スルヲ得ヘシ
 右三件中第一ハ農業經濟上ノ點ヨリ見レハ最
 モ利益アルヘシ農耕上ノ融通ニ家畜ノ要用ナ

ルヲハ宛モ人體ニ於テ血液循環ノ為ニ心臓ノ
 作用ヲ要スルト一般ナリト云フモ可ナリ何ト
 ナレハ初ノ地ノ産物ヲ食テ復タ更ニ産物ヲ滋
 育セシムルヲ得ベキ糞料トシテ之ヲ地ニ戻シ
 復タ之ヨリ産出シタルモノヲ消費シテ更互ニ
 新陳代謝スレハナリ此故ニ農家ハ家畜ヲ保養
 スルヲ愈多ケレハ肥料ヲ調製スルヲ愈多ク隨
 テ益地味ヲ肥沃ナラシメテ是ヨリ益饒多ク收
 獲ヲ得ルニ至ルヘシ
 第二件ナル駄牽用トシテハ近來大仕掛ノ耕作

ニ於テハ蒸氣力ナル競争物ヲ生シタルニヨリ
稍其功用ヲ減シタリトイヘル思フニ農作上ノ
勤勞ニハ一種異ナル所アルニ由リ蒸氣力ノ使
用ハ必ス常ニ其區域ヲ限ルベシ蓋シ馬ハ今日
富饒ニシテ且完全ナル耕作ノ牽獸ナリ佛國西
北部ニ於テ之ニ用フル者ハ總シテ馬ナリ牛ハ
氣候惡シク烏麥及ヒ秣草ノ生育惡シキ地方ニ
テ用フル牽獸ナリ是レ佛國南部諸州ニ於テ概
ムネ用フルモノナリ然レモ牛ハ馬ニ比スレハ
之ヲ飼フ費用少キノミナラス耕作ニ用キタル

餘尚牛乳等ヲ得ルノ利益アルニ由テ佛國北部
ノ豊饒ナル耕作上ニモ漸ク將ニ布及セントス
第三家畜ヲ賣物ト為ス場合ニハ國土愈富有一
シテ而シテ道路交通ノ便愈開クレハ隨テ愈盛
大ヲ致スベシ今日佛國ニ於テハ牛乳牛酪ハ最
モ多量ニ産出ストル需要益多キヲ以テ前ニ比
スレハ大ニ其價值ヲ引上タリ之ニ準シテ牛肉
ニテ販賣スルモノモ亦甚タ多キニ至レリ
近来牛ハ其需要ニ應シ生育モ亦隨テ益多ク其
數ハ前ヨリ倍蓰セルノミナラス之ヲ肥ヤスニ

注意スルカユヘニ其重量モ亦殆ト三倍スルニ至レリ然レモ牛肉ノ價ハ益騰貴セリ何トナレハ消糜者ノ需要日ニ月ニ益増加スルハ其産出者ノ供給スル勢カヨリ尚一層速カナレハナリ其結果ハ如何アラシカ蓋シ此等ノ牛乳及ヒ牛肉ヲ産出スル者ハ之カ為ニ巨大ノ利益ヲ收メ即チ農家ハ益勉強シテ此動物ヲ生育スルノ方法ヲ究メ益多ク此等ノ物品ヲ産出シテ市場ニ供シ民間普ネク富有ヲ致シテ遂ニ許多財本ヲ入レテ耕作ノ方法ヲ改正シ以テ農業經濟ヲ

改良進歩スルニ至ルヘシ加之民間益富有ヲ致ストキハ百工製造ノ業ニ於ルガ如ク牛ノ生育上ニ漸ク分業法ヲ施スニ至ル可シ今日ハ屠牛ヲ生育セシムル地方ハ一般ニ僅々ノ費用ヲ以テ之ヲ生育スルヲ得ベキ僻阪寒村ノ牧草耕地ニ於テセリ例ハ佛國ニ於テハ吾人カ日々食膳ニ供スル所ノ羊肉及ヒ牛肉ハ概ネ中央高原ノ山地ヨリスルモノナリノルマンジ、ピカルジ、リム、ガン及ヒバンデ

一等ノ如キ豊多ニ滋養料ヲ與ヘテ生育スルヲ

得ベキ最モ廣大ナル牧草地ヲ有スル地方ニ於
 テハ市場ニ供スルカ為ニ許多之ヲ生育セリ馬
 ハ古ヨリ常ニ高價ノ動物ニシテ固ヨリ此規則
 ヲ以テ生育スルヲ得ベカラス佛國ニテ之ヲ産
 スル地方ハブレタギ、ペルシ、及ヒピカルジ、
 ノ西部ノ牧地ニシテ都會ノ市場ニ出シ之ヲ販
 賣スル前ニハ耕作ニ使用セリ
 凡ソ家畜ヲ分テ大小ノ二科トス
 大家畜ハ第一馬第二驢馬及ヒ騾第三牛ノ三種
 ナリ方今佛國ニ存在スル馬ハ殆ト三百萬頭ニ

シテ特ニ西北部及ヒ北部ニ多シトス驢及ヒ騾
 ノ數ハ七十萬ニシテ特ニポアツ、
 東南地方ノ如キ馬匹ノ稀有ナル處ニ多シ牛ハ
 各種合セテ殆ト一千二百萬頭アリ
 小家畜ハ羊山羊及ヒ豚ノ三種トス綿羊各種合
 セテ其數幾ト三千三百萬頭ニシテ特ニ北部及
 ヒ中央地方ニ多シトス山羊ハ其數一百萬有餘
 ニシテ特ニ山地ニ多シ豚ハ其數幾ト五百萬頭
 アリ國中到處ニ之ヲ見ザルハナシ
 ○田圃ヲ處辨スルノ方法
 草質耕作穀物類ハ凡テ此中

ニ屬ト家畜トハ通常ノ田圃ヨリ産物ヲ收穫スルニ元素ナリ苟モ此收穫ヲ為スニハ左ノ三件ヲ費サ、ルヲ得ス第一田圃ハ小作價第二農夫自身ハ勤勞及ヒ雇人ハ勤勞但雇人ヲ仕役スルニハ豫テ資本ヲ貯ヘテ之カ給料ニ充テサルヘカラス第三ハ種物肥料諸修繕費鋤鋤荷車等ハ諸道具及ヒ其破損費且耕作ニ用ヰル牛馬モ亦多必其中ニ算入セサル可カラズ又灌溉放水開墾并ニ穀倉牛房等ノ建築財本ノ利潤等是レナリ一言ニ約スレハ此等ハ農家ノ財本ニシテ即

チ人類カ其勤勞ト財本トヲ以テ自然土地ノ實益ヲ收ムルノ原素ナリ
商家ノ會計ハ至テ容易ナリ例ヘハ賈人ハ其ノ價銀ニテ其ノ貨物ヲ仕入レタレハ其資金ヲ取上ケ然ル上若干ノ利益ヲ收ムルニハ元價ニ何割ヲ加ヘテ販賣セサルベカラスト斯ク算スレハ可ナリ製造家ノ會計ハ是ヨリ稍入組居ルトイヘズ是レ又其産出シタル各物品ニ就テ製造費ヲ引去リ幾多ノ利益アルヤ直ニ之ヲ查出スルヲ得ズ然ルニ農家ノ會計ハ最モ繁雜ナリ

蓋シ其各様ノ手數ハ精細ニ彼此互ニ連累スル
 ニヨリ別個ニ其計算ヲ立ルヲ能ハス今年小麥
 ノ收穫ハ果シテ如何偶天災ニ逢フテ一粒ダモ
 得ザルヲアル可シ然レモ種植交替方ニ隨ヒ其
 土地ヲ肥ヤスガ為ニ藁ヲ要ス可シ然ラハ明年
 ハ多分饒多ニ甜紅蘿蔔ノ收穫ヲ得セシメテ充
 分ニ之ニ報ユベシ又其甘藷ハ如何ニ毫モ直ニ
 潤益ヲ收ムルノ目的ヲラサル可シ但之ヲ地ニ
 播種シテ富ノ根源ナル我家畜ヲ滋育スルニ在
 リ綿羊ハ其毛ヲ以テ必ス其養育費ヲ償フ可キ

ヤ是又必定トハ期シ難カル可シ然レモ週年ニ
 幾多ノ羊仔ト幾多ノ肥料トヲ得ラルベキヤ而
 シテ其親羊ヲ販賣スルノ見込モ亦立サル可カ
 ラズ此故ニ耕作ノ業ハ其全體ヲ合算スルニ非
 トハ利害ヲ断定スルヲ能ハザルナリ故ニ凡ハ
 農耕ハ術ハ勉メテ此全體ハ利益ヲ豊饒タラシ
 ムルカ為ニ此等ハ各個ハ事業ヲ協合セシムル
 ニ在リ
 農家ハ家畜ヲ保有スルヲ愈多ケレハ其收穫ハ
 愈饒多ナリトハ余カ己ニ斷言スル所ナリ然レ

氏穀物ノ收穫多寡ハ家畜ノ多寡ニ係ルモノト
セハ家畜ノ多寡ハ牧草ノ多寡ニ因ルヘシ總シ
テ農耕ノ道ハ此理ニ外ナラサルナリ吾人須ラ
ク農耕ノ方法ヲ改更セント欲セハ漸次ノ進歩
ヲ圖ル可シ固ヨリ急進ノ業タラザルナリ
既ニ説明スルカ如ク農耕ノ道ヲ改良スルノ根
源ハ全ク財本ニ在リ製造耕作ヲ振起セントス
ルモ亦財本ニ在リ家畜ヲ獲ルモ農具ヲ購求ス
ルモ皆財本ニ因ラザル可カラス特ニ方今新發
明ノ各種ノ鋤撒種鋤等ノ如キ完全ナル農具器

械ハ少小ノ財本ヲ以テハ得可カラサルナリ
此點ニ於テハ特リ財本ノ活動力ノミニ由ルニ
アラス學術ノカモ亦與カリテ功アリ抑農具ヲ
改良シ且植物發生ノ秘事ヲ發露シテ古來因襲
ノ技術ニ代フルニ學問上ノ技術ヲ以テセシム
ルモノハ學術ニ非スシテ何ゾヤ今ヲ距ルテ五
十年來佛國農政上ニ學術ノカヲ致シタルヲ舉
テ計ルヘカラス然レモ既往ニ收得シタル鴻益
ハ尚將來ニ期スル所ニ比較スレハ九牛ノ一毛
ニ過キス須ラク其實功ヲ奏セント欲セハ左ノ

二件ヲ要ス即チ民間ニ尚一層最多ハ財本ヲ蓄積スルト尚一層人民教育ヲ布及スルト是ナリ
 ○佛國ニ於テ樹木ノ耕作 樹木ノ耕作モ亦一種ノ耕作ヲ為スモノトス

佛國ノ耕地ニ於テハ樹木種植ハ唯他ノ植物ノ附屬物タルニ過キスノルマンジールニ於テハ林檎樹ハ所在田野ニ充滿シテ之ヨリ林檎酒ヲ製ス又東南部ニ至リテハ專ラ桑樹ヲ培植シプロバンスニ於テハ橄欖樹中央部ニ於テハ栗樹ヲ作り其木材ト果實トヲ取り其他榆及ヒ白楊ヲ

培植セリ此等ノ樹木ハ凡テ路傍又往々田圃ノ邊縁ニ列植セリ

樹木培養ニシテ一種異ナルニ大耕作ヲ成スモノハ葡萄樹及ヒ山林ナリ

葡萄樹ハ佛國ノ地味ニハ天然最モ能ク適スルモノニシテ專ラ之ヲ培植スル地方ハ即チブール

ルゴーギヤロンド州内及ヒシヤランド州内ノ山谷ラングドック、ロリン浴河等ニシテ其面積ニ

百五十萬エクタルトス而シテ之ヨリ年々收穫スル物産ノ價額ハ幾ント八億フランクトス蓋

シ此耕作タルヤ豊歉甚ク極リナク其市場ノ景
氣盛ナル年ニハ(是レ産出最モ多キ年ニハ甚ク
稀ナルモノナリ)頗ル培養家ニ利アリト雖モ近
來數年間其勤勞ヲ償ハサルヲ多シ此耕作ハ一
種特別ナル者ナレ且常ニ禾穀耕作ト連合シテ
即チ山岳ノ傾斜面ニハ葡萄樹ヲ作り平地ニハ
禾穀ヲ作ルヲ常トスルカ如シ
之ニ反シ森林及ヒ樹木ノ耕作ハ凡テ他ノ作物
トハ獨立シテ為スモノナリ佛國ニ於テ廣大ナ
ル山林ハ幾ント九百萬エクタールノ面積ニ至リ

概シテ農耕ニ適セサル荒蕪地ヲ以テ之ニ充ツ
山岳ニ富メル地方及ヒ沙礫ノ土地ニ山林ノ多
キハ此理ニ外ナラス然レ且之カ為ニ空中ニ霧
雨ヲ起シ土地ノ濕氣ヲ保存シ或ハ之ヲ分散セ
シノテ全國一般土地ノ肥沃ヲ維持セシムルニ
ヨリ山林ヲ保存スルヲ極ノテ緊要ナリ
山林ハ物産ヲ收ムルノ點ヨリ見ルモ亦最モ緊
要ナリ伐木林ニ仕立タル山林ノ樹木ハ僅ニ薪
炭板桶板等ノ如キ形小ニシテ價少キ物産ニ過
キストイヘ且其收入屢次ナルノミナラス一定

ノ年期ニハ其所有主ハ必ス之ヲ伐木シテ若干ノ收入ヲ得ベシ是レ世人一般ニ高樹林ヨリハ矮樹林ヲ擇取スル所以ナリ高樹林ハ大土木ニ供用スル木材及ヒ軍艦等ノ製造ニ用フル大木ヲ産ストイヘ其數百年ノ星霜ヲ經サレハ之ヲ伐ルヲ能ハス故ニ廣大ノ森林カ若クハ政府ノ所有物ニ非レハ此樹林ヲ保存スルハ不利ナリトス又矮樹林トイヘ其廣大ナル區域ヲ所有スルモノハ能ク注意シテ伐木ノ年限ヲ計リ之ヲ數林區ニ分割スルニ非レハ期ヲ定メテ收入

ヲ得ルヲ能ハサルベシ若シ其所有主タル者各林區ノ樹木ヲ十五年間毎ニ斬伐スルモノトセハ之ヲ十五林區ニ分割シ年々逐次ニ其林區ヲ斬伐シテ毎年山林ノ所得ヲ收ムベシ凡ソ矮樹林ヲ斬伐スルニ方ツテハ中ニ就キ幼樹ニシテ發生力ノ殊ニ活潑ナル者ヲ見レバ往々之ヲ遺存シテ幼樹古樹新樹等ノ名ヲ付シ數斬伐年回ノ間措テ生長セシム是レ高樹林ト矮樹林トノ利益ヲ併セテ有スルノ方法ナリ蓋シ森林ヲ保養スルノ術ハ農耕ノ如ク斯ク錯雜ナラストイ

へ此之ヲ實施スルニ當テハ却テ之ヨリ一層難
キモノナリ

是故ニ樹木及ヒ森林ハ公衆一般ノ利害ニ關ス
ルノミナラス其性質他ノ收穫ト異ナルニヨ
リ私有産中一種特別ノ者ナリ此ヲ以テ佛國ニ
於テハ一千八百二十七年即チ世人カ始メテ山
林ノ有益物タルヲ知リテ遂ニナニシノ山
林學校ヲ創立シタルノ時ニ際シ特別ニ山林法
ヲ布告シテ之ヲ保存スルノ方法ヲ指令シタリ
而シテ一千八百五十六年六月十八日ノ布告ヲ

以テ此法則中ノ數ヶ條ヲ改正シ山地ニ樹木ヲ
培栽スルヲ獎勵シ且十エクタル有餘ナル面
積ノ山林ヲ開拓スルニハ政府ノ命ヲ待ツテ而
ル後ニスルニ非サレハ為ス可カラサルモノト
セリ

第三回

輸出便路ノ事

○道路交通 農耕上輸出便路ノ要用ナルヲハ
殆ト財本ト學術トノ之ニ欠ク可カラサルカ如
シ凡ソ物貨ハ之ヲ消費シ或ハ之ヲ販賣スルヲ

得ルニ、ア、ラ、ガ、ハ、バ、之、ヲ、産、出、セ、ハ、ル、ナ、リ、此、故、ニ、
 運、輸、ノ、便、開、ケ、サ、レ、バ、賣、物、起、ラ、ス、隨、ヒ、テ、耕、作、ノ、
 方、法、モ、完、全、ヲ、致、サ、ル、ベ、シ、是、レ、正、シ、ク、世、ノ、開、
 明、ノ、程、度、尚、未、ク、農、耕、ノ、期、限、ニ、在、ル、間、ノ、有、様、ニ、
 シ、テ、當、時、世、上、ノ、賣、買、品、ハ、僅、々、數、フ、ル、ニ、足、ラ、ス、
 各、州、又、各、農、作、人、ハ、僅、ニ、自、己、ノ、産、出、シ、タル、物、品、
 ノ、ミ、ヲ、用、キ、テ、生、活、ス、ル、ニ、ヨ、リ、農、耕、上、ノ、生、産、ハ、
 地、方、ノ、居、民、ヲ、養、フ、ニ、過、キ、ス、且、其、物、産、ノ、種、類、モ、
 亦、至、テ、少、ク、永、年、ノ、間、ハ、民、狀、尺、進、セ、ス、シ、テ、停、止、
 ノ、姿、ヲ、為、セ、リ、

之ニ反シ尚一步ヲ進メテ商賣期限ノ間ニ至レ
 ハ農夫ハ唯鄰人ノ需要ニ供スルカ為ニスル者
 ヲ作ラントセス何物タリモ最モ能ク地味ニ適
 シテ最モ豊多ニ收穫スルヲ得ヘキ物品ヲ耕作
 ス可シ之ニ由テ第一純益ヲ増加スベク第二財
 本ヲ増出シ常ニ許多ハ財本ヲ入レテ土地ヲ耕
 作スルノ結果ヲ生スルヲ論ヲ待スシテ明カナ
 リ
 苟モ此目的ヲ達セント欲セハ第一ニ急速利便
 ナル道路交通ヲ開キ各地方物産ノ輸出ヲ増加

セシノテ各地互ニ分業ノ利益ヲ圖ルノ方法ヲ設ケザルヘカラス

一

例ヘハ爰ニ一村落アリ良好ノ道路ヲ欠クカ為ニ是ヨリ三十リ我一里十町余ノ小麥ヲ運搬スルニハ毎リ五フランクツ、ノ割合ヲ以テ十五フランクヲ費セハ原價十五フランクノ小麥ハ其市場ニ至リテ三十フランクノ高價ト為ルベシ蓋シ此都會近村ノ耕作人ハ此一エクトリトルヲ産出スルノ費用ハ少キノミナラス運搬ノ費用僅少

ナルニヨリスク三十リ以外懸隔シタル農夫ハ逆モ之ト競争スルヲ能ハザルナリ斯ル場合ニテハ各農家ノ産物ヲ販賣スルノ區域ハ極メテ狭小ナルベシ即チ一エクトリトル二十フランクノ價マテナレハ購求者ヲ見出シ得ル者トセハ其距離ハ五リ以内地方ニ限ルカユヘニ之ヲ賣捌ク市場ノ廣サハ方三百十四リ面積ノ中ニ在ル可シ此時ニ當リ偶然ニ道路交通ノ便ヲ改正シ前ノ半價ヲ以テ運搬スルヲ得且前ノ如ク一エクトリトル二十フランクノ價

マテハ購求者ヲ見出シ得ルモノトセハ今ハ其賣捌ク地方ハ二十リウノ距離ニ廣カリテ市場ノ廣ハ方一千二百五十六リウノ面積ト為ルヘシ即チ販賣者ハ運送費ガ今半價ニ減シタルニ由テ面積四倍ノ市場ヲ開キタリト云フモ可ナリ假令實際ニ於テハ斯ク精算上ノ利益ヲ生セサルニ以テ道路交通ノ開ケタル影響ノ大ナルヲ示スニ足ルベシ

蓋シ此影響ハ獨リ陸路ニ由テノミ得ル所ノ者ニ非ラス又溝河、航海ノ進歩、鐵道尚内地ノ行政

商業上ニ干涉ヲ及ボスト否ト關税法ノ緩嚴等ニ歸スルモノアリ佛國ニ於テ封建政治ノ時代ニ在テハ各州ノ令ハ其領内ヨリ禾穀ノ輸出ヲ許スモ或ハ之ヲ禁スルモ自己ノ隨意タルカユヘニ賈人カ其禁令ヲ恐ル、ト宛モ運送費ノ増加シタルカ如ク市場ノ區域ヲ制限シタリ今日鐵道ハ幾ント全國ヲ網羅シタルニ由リ物貨運般ノ業ニ一大改革ヲ及ホシ隨テ我農政上ノ有様ヲ一變シタリ之ニ由テ鐵道線路近傍ノ各耕野ハ宛モ佛全國ヲ賣捌所ト為スヲ得ルニ至リ

タリ

二 己ニ云フカ如ク此時ニ至リテハ各地方最
 モ能ク地味ニ適スル物品ヲ耕作スルヲ得ベシ
 例ハ其地方ハ最モ牧草ニ適スレバ交通ノ便
 未タ開ケサル前ニ在テハ其郊野中良好ノ部分
 ヲ擇テ穀草耕作ニ供セサルベカラス今ハ然ラ
 ス專ラ之ヲ收草地ト為シ夥多家畜ノ賣品ヲ生
 育シテ之ヲ販賣シ其代價ヲ以テ他ノ地方ヨリ
 我濕地ニテ産出スル所ノ者ヨリ品質良好ニシ
 テ且安價ナル穀物ヲ買入ル、ヲ得可シ鐵道開

設以來ブレタリー州ハ其氣候ノ之ニ適スルニ
 ヨリ專ラ野菜ヲ作りテ巴里ノ市場ニ供セリノ
 ルマンデー及ヒペルシハボース州ノ田野ニテ
 用ユベキ馬ヲ産セリ
 又交通ノ便開ケタル以來農耕上ハ融通ハ最モ
 廣大ハ區域ヲ得ルニ至ハリ往時ニ在テハ今日
 尚諸方ニ於テ為スカ如ク同耕原ニテ家畜ノ飼
 料ヲ作り又其糞料ヲ之ニ與ヒ悉皆同一地ニテ
 之ヲ收メ之ヲ施ス所タリシカ今時ハ地方ニ産
 出スル所ノ者ハ都會ニ出シテ其居民ノ消費ス

ル所ト為リ地方ハ復タ都會ヨリ塵芥及ヒ人糞
 等ヲ得テ之ヲ耕地ニ施付スルトハ為レリ之
 ヲ要スルニ泰氣ハ費用ヲ要セスシテ都會ノ瓦
 斯ヲ吹キ散ラシ商買ハ動植物ヨリ生シタル固
 形及ヒ流動ノ粉滓ヲ運搬シ而シテ原ト田圃ヨ
 リ運出シタル豊饒ノ原素ヲ復タコレニ恢復ス
 ルモノトス

田野中ニハ天然耕作ニ必要ナル原質ヲ備ヘス
 甲ハ只石灰ノミヲ含ミ乙ハ粘土ノミ丙ハ砂ノ
 ミヲ有チテ耕ヤスモ益ナキモノアリシヤンハ

一ギブリーイリー及ヒソローギエ等ナリ然ルニ道
 路交通ノ容易ナル今日ニ於テハ商人之ニ介シ
 テ其粘土地ニハ石灰石灰地ニハ粘土ヲ運荷シ
 来テ之ニ混和シ以テ昨日ハ沙漠タル荒野タリ
 シモ今日ハ變シテ良田ト為レリ
 凡テ事物ノ改新ヲ為シタル他ノ場合ニ於ルカ
 如ク今道路交通ノ便開ケタルカ為メ農工商一
 般ノ利益ヲ致セリ即チ農家ハ前日ト同一ノ勤
 勞ヲ費ヤシテ其得ル所ノ報酬ハ最モ多ク又之
 ヲ消費スル工商ハ前日ヨリ多種ニシテ且多量

ノ物産ヲ供備スルヲ得可シ其全國社會ニ就
 テ之ヲ云ヘハ之カ為ニ其收得シタル財本ノ以
 許ヲ損失シテ前ヨリ更ニ一層善ク自然カヲ利
 用シ以テ人間一般ノ快樂ヲ享受スルヲ擧テ數
 フベカラザルナリ

○都府及ヒ市

前節ニ述ルカ如ク道路交通ノ
 便開ケテ貨物ヲ賣捌ク地方ノ範圍益々擴張スル
 ニ從ヒ貨物ノ捌ケ口愈々擴張スルノ理ナレ氏實
 地ニハ斯ク行ハレサルモノ多シ第一農産物ヲ
 購求スル者ハ土地ニ非ス即チ人民ナリ試ニ范

々タル荒原ニ十里程ノ道路ヲ開ケヨ蓋シ之カ
 為ニ僅ニ二十人ノ購求者ヲモ見出サ、ルベシ
 又之ニ反シ大都府ニ通スル三里程ノ道路ヲ開
 ケヨ之カ為ニ一千人有餘ノ購求者ヲ増スヘシ
 然ラハ其結局ハ左ノ一言ニ歸セン曰ク一大都
 府ノ存スルハ其近傍農耕上ニ差響ヲ及ボス
 ハ賣捌口ノ範圍廣大ト為リタルト一般ナリト
 凡ソ佛國中巴里近傍ノ特ニ野菜耕作ニ於ルカ
 如ク斯ク饒多ノ收入ヲ得セシムル地方ナカル
 ベシ而シテ佛國農耕ノ最モ殷富ナル地方ハ已

二百工製造旺盛ニシテ人口稠密ナル許多ノ大都府ヲ創立シタル北部ノ州郡ニ如クモノナカル可シ余カ己ニ説明シタル經濟上ノ種々ノ景勢ト一般ニ是又左ノ決論ヲ支フルニ足ルモノトス曰ク百工製造[○]富盛[○]ナレハ[○]農耕[○]モ亦[○]富盛[○]ナリト

大市及ヒ常市ハ物貨特ニ農產物ノ賣捌ヲ容易ナラシムルカ為ニ開設スルモノニシテ大市トハ一年ノ中ニ一回若クハ二回開設セル者ヲ云ヒ常市トハ一ヶ月間ニ幾回モ開クノミナラス

往々毎週間ニ開ク者ヲ云フナリ内地交通ノ便利開ケルニ從ヒ大市ノ要ハ漸ク必キニ至ル蓋シ從來大市ニ出テ、問屋商ニ就テ一手ニ購入レ置キタル物品ヲモ今ハ各人其時期ヲ待タスシテ需要ノ都度ニ購求シ得ルノ便アレハナリ小賣商買ハ其仕掛ハ小ナリトイヘ氏市ト競争スルヲ得ルモノナリ何トナレハ毎日需要者ニ物貨ヲ供備シテ而シテ之ヲ購フカ為ニ遙々ト遠方マテ行クノ勞ヲ省カシムレバナリ之ヲ畢フルニ問屋商賣ト小賣商賣トヲ問ハズ

ナリ凡ソ高賣ハ人為ノ方法ヲ以テ之ニ干渉セ
ス事物ノ自然ニ任スルキハ敢テ之ヲ督促セサ
ルモ世人必ス消費者ノ為ニ便利ニシテ且最モ
儉約ノ方法ヲ設テ此業ヲ行ハントニ汲々タル
可シ是レ政府カ商業ニ關涉スベカラサル所以
ナリ實ニ甲商若シ最良法ヲ見出サ、レハ乙商
自ラ其利ヲ計リ一種ノ方法ヲ設ケテ甲商ニ競
争スベシ乙商ノ方法ニシテ果シテ甲商ノ所為
ニ優ルレハ其利益ヲ收得スルヤ必セリ

故ニ專賣者及ヒ專賣利權等ノコトヲ外ニシテ論
スレハ凡ソ高賣ハ貨物ノ運送ニシテ即チ甲ノ
地方ヨリ乙ノ地方ニ之ヲ運搬シ又某ノ年月ヨ
リ某年月ニ至ルマテ之ヲ運搬シ又某所有主ノ
物貨ヲ某所有主ニ運搬スル等ニ外ナラサルナ
リ第一方ハ其産地ニ於テ利用少キ物品ヲ乙地
ノ消糜者ノ戸口ニ供シ第二方ハ令時ニ於テハ
利用少ナク從テ割合ニ價值低下ナル物品ヲ買
入置テ他日利用多ク從テ價值騰貴スルノ時ヲ
待ツモノナリ第三方ハ最モ屢他ノ二方ノ賣買

ノ介ト為リテ之ヲ活動セシムル者ナリ
蓋シ穀商ハ他ニアラス右ニ陳スル所ノ一種カ
若クハ二三種ノ運輸ヲ業トスルニ過キス即チ
遠方ノ地方ヨリ小麥ヲ其市場ニ持出シ又他日
需要ノ景況ヲ見計ラヘテ之ヲ賣シカ為ニ今後
收穫シタル小麥ヲ貯ヘ又ハ農夫若クハ他ノ商
人ヨリ其鋪店ニ供フヘキ穀物ヲ購求スル者ナ
リ總シテ最モ能ク大都會人民ハ生存ヲ保全ス
ルヲ得ル者ハ人為ハ工夫ニ由テ事ヲ為スヨリ
ハ各商人自己一身ハ損益ヲ計リテ營ム商賣ト

供給トハ自然ハ機關ニ委スルニ如ク者ナカル
ヘシ

○農産物ノ輸出入 甲乙二郡ノ關係又等シク
甲乙二國ノ關係ヲ支配スル經濟法ニ由リ甲乙
共ニ利トスル所ハ其物産ノ捌口ノ廣大ナルニ
在リ

各國境ニ輸出入スル貨物ニ賦課スル關稅ハ古
來此經濟法ニ從ヒテ施行セサルナリ關稅ノ種
類即チ左ノ如シ

一國ハ歲入ヲ助カルハ目的ヲ以テ課スル者

此税ハ過度ニ涉ラサルハ、須ラク賦課シテ可
 ナリ何トナレハ凡ソ國內ニ入ル所ノ貨物ハ其
 國ノ財貨ノ部分ニシテ即チ其表徴ナレハ宜シ
 ク之ニ課スベキモノトス

二 政畧上ハ目的ヲ以テ課スル者 其不和ノ事

件ヨリ甲國ノ物品ヨリ乙國ノ物品ニ苛重ノ關
 税ヲ課シテ之ヲ拒絕セントノ趣意ニ出ルモノ
 ニシテ是レ同一ナラサル事物タル一私人ノ關
 係ト國家ノ關係トヲ混同セルモノニシテ最モ
 痛歎スベキモノタリ

三 誤解ハ經濟法ヲ主張シテ賦課セル者 所謂

エシイル、モビル」ナル關稅ヲ施行スルニ至リタ
 ルモノハ經濟法ノ誤解ヨリ出タルナリ是レ即
 チ佛國ニ於テ幾ト五十年間穀物ノ賣買ヲ制限
 スルカ為ニ施行シタルモノニシテ其主トスル
 所ハ佛國市上ノ相場低下シタルニ隨ヒテ増加
 スベキ税ヲ其輸入ニ課シ又其物品カ市場ニ於
 テ其ノ定限價ヨリ下落スル時ハ全ク其輸入ヲ
 拒絕シタルニ在リ時ニ其眼目トスル所ハ外國
 産ノ穀物安價ナルキハ本國ノ農家ハ之ヲ販賣

スルノ路ナキニ苦シムカユヘニ專ラ自國ノ産
出人ニ佛國ノ市場ヲ壟斷セシメント欲スルニ
外ナラス此ニ由テ佛國ノ政事家ハ價銀ヲ騰テ
一ニ是レ産出人ノ損益ノミヲ計リテ其他消費
者ノ損失ハ措テ問ハサルモノト云フヘシ然レ
氏能ク全國ノ價格ヲ維持シテ大下落ヲ阻過ス
ルヲ能ハサルナリ何トナレハ此成法ノ行ハル
ル間ニ今日一「エクトリトル」ノ價四十フランク
ノ小麥ハ明日ハ十二「フランク」ニ下落スルカ如
キ昇降アリタレハナリ

佛國ニ於テハ一千八百六十一年六月十五日ノ
布告ヲ以テ此法ヲ廢棄シ更ニ輸入穀物ニハ每
石クトリトルニ五十サシム即チ「フランク」ノ半分ノ
關稅ヲ設テ穀物賣買ニ自由ヲ得セシメタリ此
新法ノ効能ノ重ナル者ハ凶年飢歲ノ節ニ當リ
商賈カ前ノ如ク外人ニ就テ穀物ヲ購入レタル
時ト佛國ニ向テ之ヲ輸出スル時限トノ間ニ關
稅ヲ增加セラル、カ若クハ全ク其輸入ヲ禁遏
セラレ、ノ恐ナク安心シテ夥多自由ニ購入ル
ルヲ得センタルニ在リ故ニ此改正ノ至重ナ

ル成績ハ穀物騰貴ノ節ニハ夥多之ヲ輸入シテ其騰貴ヲ制スルニ在リ

凡ソ自由交易ヲ行ハ國々ハ如何ナル凶年飢歲ニ逢フモ人民食料ニ欠乏スルハ患ナシ

佛國ハ古來常ニ小麥及ヒ麥粉ノ輸出入ヲ為シ舊稅關法ノ行ハル、間ニ在テモ此貨物ノ輸入高ハ常ニ其輸出高ニ超過シタリ其自由貿易ヲ開キタル以來此輸出入ノ過不及ヲ程詰クシ特ニ大ニ既製品ノ製造ヲ發生セシメテ今日佛國ノ商賈ハ多量ノ小麥ヲ輸入シ之ヲ麵包粉ニ製

シテ再ヒ海外ニ輸出セリ己ニシテ此自由貿易ヲ開キタル後七年間ノ輸出入統計ヲ見ルニ小麥及ヒ麥粉ノ輸入ハ一千八百六十一年ニハ一千五百五十萬エクトリトルナリシカ一千八百六十五年ニハ一千五百五十萬エクトリトルニ減シ而シテ其輸出額ハ一千八百六十一年ニハ一百五十萬エクトリトルナリシカ一千八百六十五年ニハ八百五十萬エクトリトルニ増加セリ今年ヨリ明年ニ至ル間ニハ幾ト三億フランク或ハ一億五千萬フランク即チ四億五千萬フラン

クノ債ヲ負フテ經過シタル此差異ハ佛國市場ノ一般ノ景氣ニハ最モ著シキ影響ヲ生シタリ。○農耕ノ道ヲ講習スル。凡テ百貨ヲ産出スル方法ト一般ニ農耕上自然カヲ控御スルモノハ人カト學術トナリ蓋シ農耕ノ學術ヲ増加シ且之ヲ傳播スルハ凡ソ國家ノ富盛ヲ慮ル者ノ第一義務ノ一ナリ財本ハ節儉シテ之ヲ保全シ且造成シタルモノナリ學術モ亦人ノ講習ニ由テ之ヲ造成シ且之ヲ保全スルヲ得ルモノナリ農耕上此學術ヲ分ツテ二種トス第一人々相互

ノ講習是レ各人實驗又ハ農學上ノ講談等互ニ其智識ヲ研究スルコトニシテ其目的ハ經驗討論老農會議ニ由テ農務上ノ學術ヲ造成シ且之ヲ増殖スルニ在リ第二幼年輩ノ訓導是レ幼年輩ニ農學ヲ訓示シ因テ以テ古來傳フル所ノ農學ヲ傳播シ且ツ之ヲ保全スルヲ主トスルナリ其第一種ハ即チ某府縣ニ設置スルモノニシテ其長官若クハ次官ノ之カ會頭タル農會院全國農講會是レ佛國ニ於テ未タ設置セサルモノ地方農談會佛國ノ十二農區ノ大都會ニテ定期ニ

Review of the book

231
L 57(2)

農工商經濟論 卷二 農工部
農工商經濟論 卷二 農工部

催スモノ州縣内ノ協議ヲ以テ開クル農講會等
其他多種ノ農會アレ其重立タル者ハ巴里府
ニテ開會セル帝國中央農會是レナリ

其第二種ハ農務省所轄ニ属セルダリギヨン、グラ
ン、ジアン及ヒソールセーノ三農學校及ヒ農學
ヲ目的トシテ設立シタル中學校(即チナポレオ
ン、バンデー等)其他巴里ノ全國農講會等ヲ始ト
シテ公私農學ヲ講習スルモノヲ謂フナリ

農工商經濟論卷二 農業篇了

明治十四年十一月二日版權免許

譯者兼出版人

東京府士族

永田健助

牛込區牛込揚場町十八番地

定價五錢

發賣書林

東京馬喰町二丁目
同通三丁目
同芝三島町
同宇田川町
同南佐柄木町

石川治兵衛
丸屋善七
和泉屋市兵衛
和泉屋吉兵衛
弘文社

